

---

# 返り血のヴァリアブル。

木槌小槌

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

返り血のヴありあぶる。

### 【Nコード】

N5272BA

### 【作者名】

木槌小槌

### 【あらすじ】

無難に高校入学を果たした少年、はやかわきみさつ早川聖臈。

彼に待ち受ける運命は如何に      ！？

## # プロローグ。

今日は散々だ。

\*

\*

「につつしても、」

寒い体育館での入学式も、張り詰めた教室での自己紹介も、終わってしまえば随分あっさりしたものだ。小、中学校のときもこんな感じだった気がする。「このプリントに適当なプロフィール書くんだとさ」と前から紙が回ってきて、なんと書いたもんかねーと思案したり。

当然のように当たり前だけど、隣の席の女子は幼馴染でもなければ因縁のある仲だったり一際可愛い娘ってわけでもない。仮に幼馴染や因縁のある仲だとか一際可愛い娘だったりしても別に、ただそれだけってだけで、そうじゃなくても、不都合なことなんて何一つない。

しかしお決まりというかなんとというか、高確率で前後の席のやつとはそこそこ仲良くなる。

現にいま、オレは背もたれに体重をかけるでもなく横向きに座り、前のやつと後ろのやつとで入学そうそう雑談なんかしていた。高校生にもなるとあれだ、初対面でも普通に話せるもんだ。

なんつーか。

「無難に始まったなあー……」

オレの名前は早川聖龍（はやかわきよろう）。みんなには、キョロって呼ばれてる。あと下の名前が画数多くてダサいってよく言われる。知らん。

この春、難なくなんとか高校入学を果たし……あとはなんだろ？それだけ。

高校ではさほど物珍しいことはなかった。同じ中学のやつが大体だから話し相手には困らないがどこか新鮮味に欠けた。学食はまだ未経験。部活は少し前ならサッカー部にでも入ろうと思っていたが、オレの入った年にはもう同好会に格下げされていて、先輩を含めても部員数は三人。ちよつと無理だな、って感じ。

クラスメイトのチャライやつがゴールデンウィーク辺りに早速合コンを計画していて、オレにもお呼ばれの声がかかり、「高校生活ちよつとすげー」と関心していた。

そんなくらい？

高校では入学早々そんな感じ。みんな若くて元気で困る。可もなく不可もない。

\*

その日の夜、オレはふとハンバーガーが食べなくなった。

夕食を終え、なんかのお笑い番組を見終えた頃の時刻は八時四十分そこそこ。母親に「こんな時間に出てくなんて不謹慎よ」とか言われそうだったが、なんだか無性に、ハンバーガーが食べなくなつたのである。どうしたものかと考えた結果、近所のマックに出向くことにした。

物音を立てないようにして家族の目を掻い潜り、玄関の鍵を開けて自転車のあるところへ向かう。

車輪が回るときにチェーンが立てるカチカチという音を極力少なくするため、後輪を持ち上げながら私道まで出すのは少々苦労した。あとはサドルに跨り、自転車をこぐだけ。

ポテトとパイと、チーズバーガーと、とか、なんでだか笑ってる自分がいた。

そして。

「……………」

ペダルを踏みつけ揺られること十数分、レジで注文したあとにオレは財布を持ってきていないことに気づいた、と思いきや実は財布はちゃんと持ってきてたんだけど中身が絶望的なまでに足りてない、ということはにしろ今年発売されたゲームのハードを買いたいしここでお金使っちゃうのもなーって渋り、でも買わないのにレジに現れるってどういうことよ？ 冷やかし？ と申し訳なくなり、一番安いハンバーガーとお水を頂いた、んだけれどもなぜか袋を用意してくれず、そのままポンつと出された始末、オレは袋に入れてもらえますかと言えず仕方なく自転車のカゴにそれらを乗せ早く帰らないと父さんと母さんがうるせーなーと自転車のペダルを思いつきり踏みつけたところ段差でがっくんてなつて、水の入ったコップがハンバーガーにかかり、ベチヨベチヨになった、のである。

「……………クソう」

水なんか頼まなきゃよかった。家でいくらでも飲めるじゃんか、水道水。

オレのバカ、おバカ！

自分の頭をボカス力叩いていると、夜道を歩くカップルに「何あいつ、キモ」「言うな言うな、自分のこと可愛いつて思ってたんだよ、見ちゃいけません」とか言われた。

……………今日は散々だ。

夜中というだけもあり、車も人もあまり見かけない。信号機がただひたに点滅を繰り返すのはどこか怖いものを思わせる。赤信号とか踏み切りが怖いのと似ている。

車の少なさから信号無視しても差し支えなかったが、信号無視し

ようとしたところで青になられてはそのし甲斐もない。なんてことだ。コンチキショウ。

横断歩道を渡りきり、あとはその住宅街の二、三回ほど曲がれば自宅に辿り着く。  
のに。

今日は散々だった。ほんとに本当にそう思う。

ふと視界に入った電線が、ものすごい音と火花を上げていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5272ba/>

---

返り血のヴぁりあぶる。

2012年1月14日16時52分発行